

## 水環境委員会・里山植林班

〈年間活動報告〉

H20・2・24 NPO 初島森林植物園ネットワーク主催

『丸山子どもの森植林作業』

H20・4・20 NPO 初島森林植物園ネットワーク主催

『20年度通常総会及び丸山子どもの森観察会』

H20・4・27 水と森部会主催 『千倉ダム植林作業』

H20・6・8 NPO 初島森林植物園ネットワーク主催

『巻き枯らし作業』

里山植林班メンバー 石松義彦 後藤美和 岩木千穂美 岩下登世香

梅原春菜 森山ひとみ 坂東智美 小野賀寿美

私達、水環境委員会・里山植林班の活動も三年目に入りました。今年は前年の活動に加え、新たな作業にも参加することができ、さらに多くの事を学ぶ事が出来ました。ご協力いただいた方々にお礼を申し上げます。

今年の里山植林班の活動は、二月に『丸山子どもの森』にて行われた植林作業から始まりました。当日はあいにくの雪混じりの天候でしたが、岩里理事長にも参加頂き、たくさんの方々と色々な種類の苗木を植える事が出来ました。植物の名前を記した看板や名札などがあり、学校の授業の一環として子ども達が学べるようになっており、小さな時から自然に親しむことのできる恵まれた場所となっております。



四月に行われた『千倉ダム』にて行われた植林作業では、県外からの参加者も含め子どもから大人まで110名ほどの参加があり、環境に対する意識が高くなっているように感じました。椎茸の菌打ちや採り立ての山菜のてんぷらを食べたりして普段体験できない事が出来、楽しめる1日となりました。



又、同月『丸山子どもの森』にて行われた、植物観察会では、森の木々の生態系に触れ、森に生息する植物にはそれぞれに掟があり、一つ一つが協力し合っ  
て春夏秋冬を過ごしているような感じさえ受けました。参加者の方々は植物、  
昆虫、鳥類とそれぞれに詳しい方が多く色々なお話を聞くことが出来、楽しい  
時間を過ごせました。又、二月に植林した木の成長も見ることが出来ました。



六月には、『巻き枯らし(間伐)』の作業という新しいことにも参加してきました。

(ユリノキ・詳しくは後ほど説明します) 九月には、草刈作業を行なう予定でしたが、雨の為順延となり都合がつかず、残念ながら参加することが出来ませんでした。以上が簡単ですが、里山植林班の活動内容です。



日本の国土は三分の二を森林が占めており、世界の中でも有数の恵まれた森林国です。四季もあり、水と木に恵まれた自然豊かな国です。森林率は大分県で約70%、日田地区においては80%にもものぼるといわれています。

しかし、最近では、山の仕事に携わる人が年々減ってきており、手入れがなされずに荒廃している山が多くあります。このような現状に微力ながらお役に立てることが出来ればと思い、活動を行なっています。

『植林』は後の手入れがとても重要になってきます。『植林活動』について行なってきたことを述べたいと思います。

植林活動は「植林」「手入れ(下草刈り)」「間伐(巻き枯らし)」という作業を行ってきました。

まず「植林」の目的には、壊された自然林の復元、雨による土砂の流出及び侵食の防止、生態系の保全等が挙げられますが、今、世界中で問題となっている地球温暖化の緩和にも大きく貢献します。森は光合成により、酸素を作り、人が出した二酸化炭素を吸収します。又、植林する苗木等も、その土地に合ったもの(在来種)を選択するというのも重要なことです。そうして育った木は、家を建てるときの材料となり、机やイスなど色々なものに生まれ変わり、私たちの生活を満たしてくれます。木で作られたものは温かさを感じ、私達を癒してくれたりもします。最近では木製品が見直されてきています。しかし、国産の木は、20%ほどしか利用されておらず、多くは外国の木が安価な為使用されているのが現状です。

「手入れ(下草刈り)」は、植林した周辺の草刈や少し成長した木に添え木をしたりして、育ちやすい環境作りをします。

※ 「間伐(巻き枯らし)」は実施することによって光合成を促し、草木の成長の為にも必要な作業です。木同士の競争を無くし、強い木を育てるためにも必要です。動物達のためにも住みよい豊かな森となります。間伐には木を切る方法が一般的ですが、今年は「巻き枯らし」という方法を行ないました。

それは、鎌、ナタ、ノコギリ等の道具を使い、木の皮を 10 から 20 センチ幅に剥ぎ取り、樹液の流れを遮断し、時間をかけて少しずつ木を枯らしていくという方法で、作業する人の安全を重視し要領が分かれば極めて効率的な作業だと言えます。(作業は樹液の流れが盛んな春から初夏が良いとの事) 長所は、ゆっくりと枯れていき、環境の変化が緩やかであり木を切り倒さない為、隣木が傷まないという事です。短所として枯れた木の見た目が悪いとのことです。

(※印から下文は NPO 法人初島森林植物園ネットワーク神川建彦氏から頂いた資料より抜粋) 以上が今年の「植林作業」で行った事です。

最後に、活動三年目の里山植林班で、植林をした木もまだまだ小さなものです。緑は自然の力だけではこの先残っては行かず、人の力を必要とします。10年、20年後これらの木がどの位成長するのか今後が楽しみでもあり、これからも活動を続けながら見守って生きたいと思います。

そして、この活動を続ける事によって少しでも多くの方に自然について興味を持って頂き、また里山植林班の活動にご参加頂けたら、大変嬉しく思います。

# ダム班

作成者 竹内・小山・末松・平・河津

〈年間活動報告〉

H20.7 河川愛護イベント 活動報告会 参加 (久留米市)

H20.10 大山川ダム 調査

活動報告会参加

今回、私たち水環境委員会ダム班は久留米にある、くるめウスで「私たちの活動」報告会に参加しました。私たちが今まで行ってきた、水環境活動について発表しました。



私たち水環境委員会は、これまで水環境に関連した活動を行ってきましたが、その中でも、水質調査・植林・ダム班の水環境委員会の活動の柱となるものからホテル鑑賞・せっけん洗剤・えひめ AI・リバーフェスタについて発表を行いました。

『活動報告会での発表内容』

各項目について発表しました

## 水質調査

水質調査は、病院開院当初より三隈川の採水を行っており、水環境委員会の原点となっています。



年6回 玖珠から夜明ダムまでの8箇所を実施

過去10数年のデータを蓄積していますが公開していません！

## ホタル調査

ホタル鑑賞は、ホタルの数が少なくなっている中で、どのような場所にホタルが生息しているのかを調べ、ホタルマップを作成、聖陵会職員でホタル鑑賞会などを行いました。

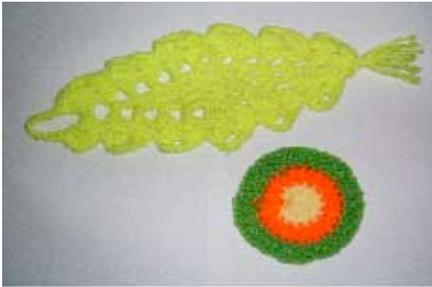


ホタルマップ



せっけん洗剤について

せっけん製剤は、せっけん作りを行い職員・外部の方への普及に努めました。



アクリルタワシ

岩里病院 栄養給食課



せっけん洗剤使用

アクリル製の毛糸で編んだもの

### せっけん洗剤作成風景

#### 材料と作り方



1 苛性ソーダを混ぜる



2 油を混ぜる



3 20 分間混ぜる



4 キャラメルのように



5 容器に流し込み 1 週間



6 完成

### 水環境委員会メンバーの植林風景

植林は、他団体に参加し植林活動を行っています。



聖陵会職員は  
実のなる広葉樹の植林を  
行いました



今後もこの緑のダムを  
守る活動にたずさわって  
いきます。



### えひめAI について

えひめAI では、自分たちでえひめAI-2 を作成・使用しえひめAI の効果

を調べました。

### 【えひめAI-2の製造方法(500ミリリットル)】

#### ○原料

納豆(粘液でも可) 1 粒

ヨーグルト(飲むヨーグルトも可) 25グラム

ドライイースト 2グラム

白砂糖や三温糖など 25グラム

水道水 約450ミリリットル

#### ○器材

ペットボトル(500ミリリットル)

手でよく振る(ミキサーでも可)



### 他の環境団体との交流

#### リバーフェスタに参加

リバーフェスタでは、環境ブースを使用し手作りせっけん・アクリルたわしの販売・水環境活動の展示など、毎年環境に関連した物の販売・展示を行っています。



ボート大会に聖陵会として参加しています。



環境ブースにて水環境委員会の活動を市民に説明しました。

昨年はダム問題についてパネルを展示しました。

### ダムについて

ダム班では、今まで自分たちが行ってきた活動(下笠ダム・松原ダム・大山川ダム・建設予定の小石原ダム)と自分たちの思いを発表しました。

下釜・松原の両ダムを調査しました



住民の方の話を聞く事が出来ました。

ダムの水質

大山ダム(建設中)を調査しました



広範囲に木々が切られ整備されていきます

この清流もダムが出来れば無くなります

小石原ダム(建設予定)を調査しました

小石原ダム工事事務所の担当者にこのダムの事を尋ねました。



## 小石原ダムサイト建設予定中心地の見学

とても綺麗な清流が流れていました



私たち水環境委員会ダム班は、これまで冊子に文章を載せることはあってもこのような活動報告会に参加することはありませんでした。今回、活動報告会に参加したことで私たちの活動を広める事ができました。また他団体の活動報告を聞くことで私たちも、もっと知識を付けていくことが必要だと感じました。また今後もこのような機会があれば参加していきたいと思いました。

## ダム調査（大山川ダム）

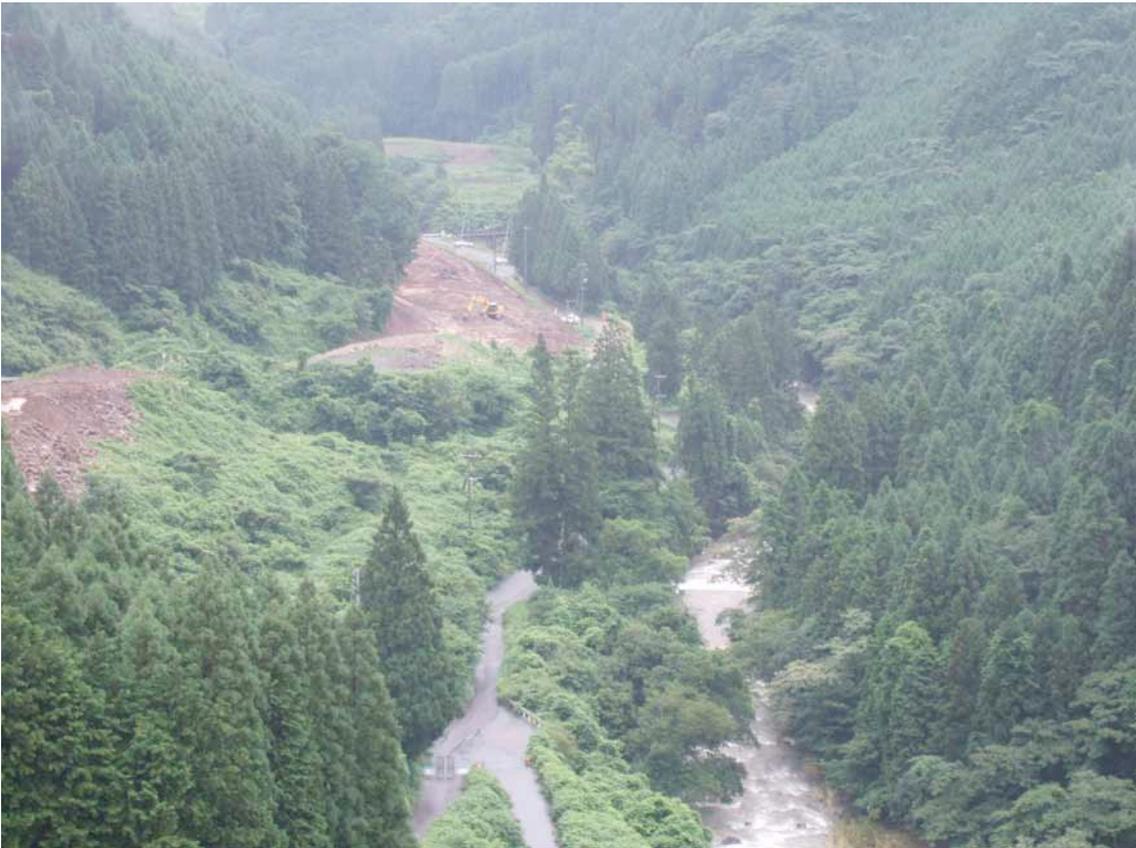
私たちダム班は以前、大山川ダムについて調査を行いました。以前調査した

時は、まだまだこれから建設が始まるところでしたが、今回調査したところ以

前の風景と大きく変化していました。これから皆様に以前の環境とどう変化し

たか見比べてもらいます。あなたはどう思いますか？

この写真の風景が…



現在ではこうなっています



その他にもダム周辺は、大きく変化していました。



この青々と茂った木々も…

現在ではこうなっています



以前は工事中であった、ダム周辺の道路も今では





前回と撮った場所は違いますが…



その他にも、工事はこのように進んでいます





この風景をみてあなたはどう思いましたか？私たちはダムが作られれば環境が変化していくことが当たり前と考えてしまいます。ですが周辺の整備(道路工事など)も考えると、さらに多くの木々も伐採され残されるのはダム関連の建物になってしまうのです。この環境の変化は、皆さんにとって良いものでしょうか？将来自分たちの子供が、孫が生きていくとき今のままの環境で生きていけるのでしょうか？人が汚したのだから、人がきれいにしていかなくてはなりません。緑を大切に、そしてこの地球を大切にしていくことが自分たちの将来のためになる。と私たちは考えていかなければならないのです。今後もこの調査を続けて行き、ダム周辺の変化を視て行きたいと思います。

※第3回は、活動を広める班の活動内容をご紹介します。